

一粒の麦

梅野典平

彼。クリスチャンと公言。(イエスをキリストと、思い決めたる輩の謂か)

「観音寺教会で、洗礼を受けたのも事実」(前総理秘書官・衆議院議員・森田一さんが如水会発行の大平正芳総理を偲ぶ写真集に、ご寄稿の文中から)

その受洗の後か前か、高松高商に工学博士佐藤定吉先生ご来校。演題「科学と宗教」。大宇宙を貫く、真理あり!と、ご熱演。全国行脚、大学高専「イエスの僕会」を結成。本校でも、支部結成の一群が、提灯つけて路傍伝導。彼の名そのなかにありと聞く。

私。何んじゃ、ヤソか。無感動。ネイチユア・イズ・ベタ・ザン・マンー開口一発大音声。社会運動家の賀川豊彦先生も、ご来校。奇抜な話術に釣られて、その夜、高松公会堂へ。聴衆ゲラゲラ。笑っておるうちに「神の国運動」。即ちヤソの伝導宣伝とわかる。決心カードが配られ、住所と姓名を記入されたしと。冗談じゃないヨ。

彼と私。校内の紫雲寮に、ある期間ともに暮した勘定になるワケなれど、ついに相知ることなし。彼に先立つ一年、昭和二年入学。在寮三年。昭和五年、東京商大入学。(ごこまでは、トントン拍子なれど)

「テンペー君、ドーした。前置が長いぞ。お得意の揶揄や皮肉、受けて立つぞヨ」(ニッコリ細目、唇を綻ばせた写真の前には、ペン先がにぶるでナア)

彼。「聖書」に親しみ、耽読するにつれ、社会科学に興味を失い、さらに、ロクマクを患うて、一年間を休学。

(この点 不思議。後塵を拝して、と申すべきか、やがてその轍をふみ受洗。さらに彼と軌跡を一にして、休学) 彼。高松高商卒後、明色アストリンゼンの桃谷順天館に。何思いけむ、昭和八年、東京商大入學。そこで初めて、両者のめぐりあいとなる。

本来なら、私は卒業。すれ違いとなるワケである。はずかしながら落第したのである。いうなれば、四年生だ。初見の新生活とは、落差隔絶。(この瞬間、一番よろし。あとは逆転一路。ついに、大勲位と二等兵！)

私。神田一ツ橋へ、小石川原町より歩いて通學。国立町に校舎移転で、後半の下宿屋は北多摩郡国分寺村に。彼。逢うたび、「国分寺で、よくこ馳走になったものだヨ」と。「ソナナ記憶なし」。「キミが、ボケたんだヨ」。(未決事項)

私。一つ違いの従兄、井深大の誘導にて、飯田橋の富士見町教会で受洗。国分寺村に移りてより、京王沿線の松沢教会・賀川豊彦に私淑。昼食は、いつも先生の家で。

彼。思い出話。「賀川さんの家で、麦めしウマかったナア」。

ある日。「今夜、府中幼稚園で賀川さんの話があるんじゃないが」。夕食後、同じ国分寺村の彼の下宿に、迎えに行き、バスで府中へ。「山上の垂訓」終り、彼を紹介。

両名揃うて改札口で、先生を見送る。薄暗きホームから、突如、大声が、「オオヒラ君！ お雑煮喰わずから、お正月に、いらっしやいヨ」。(何んじゃ、オレにこい、といわんが)

帰途は徒歩。府中刑務所あたり、イエスよ、心に宿りて……讚美歌、うたいつつ。

(高松高商・東京商大同窓生)